

派遣国・都市名	アメリカ ワシントン州 シアトル
研修先	兵庫県ワシントン州事務所
プログラム実習期間	2019年8月26日～2019年9月20日
学部/研究科・学年	国際人間科学部3年

インターンシップ就業実習 報告書

・2019/8/26～2019/9/6 兵庫県ワシントン州事務所（以下、HBCC）でのインターンシップ

兵庫県ワシントン州事務所での2週間のインターンシップでの業務は、9月28日に行われるJapan Weekと9月25日から10月1日に日系スーパーの宇和島屋ビーバートン店で行われる「ひょうご神戸フェア」の準備でした。主な業務は次の通りです。

1. Japan Week で兵庫県を紹介する展示パネルの作成、ブースで行う日本文化アクティビティの企画
2. ひょうご神戸フェアの準備と SNS でのプロモーション

これらの業務を中心に、HBCCでのインターンシップについて以下に報告します。

私たちはどちらのイベント当日にも参加できないため、実際のイベントがどういうものになるのかということ想像しながら準備を進めました。Japan Week のパネルは、姫路、神戸、城崎、グルメの4点に絞って作成しました。兵庫県立大学のインターンの方々が生産した前回のパネルから改善点を考え、出来るだけ綺麗な写真を大きく印刷すること、一つの面にあまり多くの情報を詰め込みすぎないことの2点に注意して製作しました。

アクティビティの企画は、新聞の兜と折り紙の手裏剣になりました。これらは、お城といえばサムライ、忍者というイメージがあると考え、姫路城に関連するアクティビティとして渡航前から私が考えていたものです。最初所長に提案したところ新聞の準備が難しいということでしたが、最終的に日本の新聞の準備が可能になったため、子どもが実際に被るのに十分な大きさの兜を作るアクティビティの準備をすることができました。

ひょうご神戸フェアは、兵庫県の食品関係企業とその商品を宇和島屋ビーバートン店で販売する、日本の百貨店で行われる物産展のようなイベントです。HBCC のウェブサイトとフェイスブックページに、出展企業と商品の説明を日英でアップし、イベントの広報活動を行いました。イベントの出展企業は16社あり、どの会社もユニークで非常に魅力的な様々な商品を出品します。ウェブサイトのページの作成には初めて使うソフトを利用したが、過去にブログやウェブサイトを作成したことがあるので、その経験を役立てることができました。英語版の文章は、日本語独特の表現をどう伝えるかという点に苦労しながらも、事務所のネイティブの方に添削してもらい仕上げました。

神戸のイラストレーターの方のアメリカでの事業展開に関するマーケティングレ

ポートの作成も行いました。Japan Week とひょうご神戸フェアの業務が長引いたため、このマーケティングレポートに十分な時間を割けなかったことが大きな心残りです。市場調査や製品分析などを通して、アメリカでの事業展開のためのマーケティング戦略を提案するレポートを作成しました。この業務を担当していた方が退職されるとのことで、引き継ぐ方がおらずフィードバックをもらうことができなかったことは残念ですが、実際の事業展開に関するマーケティングレポートを作成したことは、将来の仕事にも役立つ貴重な経験だと思えます。

・2019/9/9~2019/9/20 John Stanford International School でのボランティア

John Stanford International School は、日本語とスペイン語のイマージョン教育を行っている公立の学校です。幼稚園クラスから5年生までの子どもたちが日本語かスペイン語のクラスで半日勉強し、残りの半日は英語のクラスで学んでいます。イマージョン教育とは、日本語を言語として教えるのではなく、算数や社会、理科などの学校教科を日本語で日本人の先生が教えるというものです。そのため、私たち教師は生徒とは基本的に日本語でコミュニケーションを取ります。日本語の先生方が全員で7人、別の団体からの斡旋で1年間のインターンシップに参加している正規のインターン生が2名いらっしゃいました。

勤務時間は7時25分から2時25分まで、水曜日は1時10分までです。ボランティアは職員会議などには参加しないので、基本的に授業が終わるとすぐに帰宅することができます。私の担当をしてくださったのは5年生の担任の先生で、私は午前5年生のクラス、午後3年生以外の他の学年の授業に補助として入りました。午後に行くクラスは、事前に担当の先生が他のクラスの先生方に人手が欲しいかどうかを聞いてから決めてくださっていたので、1時間ごとに細かくどのクラスに行くかという予定が決められていました。それぞれのクラスで業務は異なりましたが、午前の5年生のクラスでは生徒の補助やプリント類のコピー、算数のプリントの丸つけ、午後の1年生や2年生のクラスではひらがなのアセスメントや授業の補助を行いました。4年生、5年生の高学年の授業は主に算数と日本語、1年生や2年生は日本語や図工の授業などで生徒の補助をしました。日によっては丸つけやコピーばかりで生徒の補助をする機会があまりないときもありましたが、様々な場面で積極的に生徒との交流を図ることで、どの学年の子ども達ともたくさん交流して仲良くなることができました。また、いろいろなクラスを見ることができたので、それぞれのクラスの特徴や先生方それぞれのユニークな教育方法について比較をすることができたため、幅広く学校全体のことを学ぶことができました。

感想および意見

・兵庫県ワシントン州事務所（以下、HBCC）でのインターンシップを通して

事務所での業務は、兵庫県のことをより深く知る機会にもなりました。もちろん、インターンシップを行うためには兵庫県のことをたくさん知っておかなければなら

ないし、兵庫県や日本の様々なことを英語で発信することができなくてはなりません。しかし、ひょうご神戸フェアの準備に際して、これほど多くの魅力的な商品が兵庫県で生まれたものだということを知ることができ、そこから新たな兵庫県の魅力を学ぶことができました。

HBCC では、イベントの準備としてパネルやウェブサイトの作成、アクティビティの企画など、幅広い業務に関わることができたため、非常に良い経験をすることができました。所長を含め職員の方々は非常に親切で、和気あいあいと2週間インターンシップを行うことができました。日程が合わなかったためイベントに参加することはできませんでした。イベント当日にブースを訪れてくれる人や兵庫県や日本に興味を持つ人々と実際に交流する機会がなかった点は残念に思います。私たちが時間をかけて準備をしたパネルやアクティビティをたくさんの人が楽しんでくれることを願っています。

・ John Stanford International School でのボランティアを通して

この学校での授業は、皆さんが日本語の授業として想像するようなものとはかなり異なっています。日本語の授業を行っている先生方は皆日本人で、授業では基本的に日本語のみを使います。もちろん日本語がわからない生徒とは英語でコミュニケーションを取りましたが、多くの生徒は幼稚園から日本語でたくさんのことを学んできているので日本語で話すことが可能でした。日本語を言語として教えるのではなく、日本語でHRをしたり授業を行ったりすることで、子ども達はアメリカにいながら、日本語で学校生活を送り、日本語で多くの物事を学んでいきます。生徒達を日本語に浸すというイマージョン教育は、非常に新鮮で有効的な言語教育であると感じました。これほど特別な教育を行っている学校が公立学校であるということは非常に珍しいことだと思います。

学校では、算数の授業も基本的に日本語で行われ、すべて日本語で書かれたプリントを生徒に解かせるときもありました。生徒の中には日本語を読むことも話すことも得意な子もいますが、もちろんそうでない子も少なからずいます。算数はまだ数字を見れば問題を解くことができても、これから社会科や理科などのより複雑で曖昧な考え方や言葉を理解する必要のある教科を学習していく場面で、日本語があまり得意ではない生徒たちはどのように学んでいくのか、こうした課題に教師はどのように対処していくのかということをもっと見てみたかったです。ボランティアは学年の初めのたったの2週間だけなので、学校全体もそれぞれのクラスもまだ試行錯誤をしている段階でした。私は教員志望ではなく、教育分野にこれまであまり大きな関心を寄せてきませんでした。これから1年かけて私が交流した子ども達がどのように成長し、どれだけ日本語の能力を伸ばしていくのかということをもっと知りたいと思いました。

また、学校のほとんど全ての日本語クラスに関わることができたため、特別な教育を行っている学校ではありますが、全体として「アメリカの小学校」の現場を実際に中から見ることができ、それを通して、日本の教育とアメリカの教育の違いや子ども

の外国語教育についての新たな考察につなげることができました。学校での業務を通して、シアトルで生活をしておられるたくさんの日本人の方にお会いすることができました。シアトル、アメリカでの生活について先生方とたくさんのお話することができたのは、非常に良い経験でした。

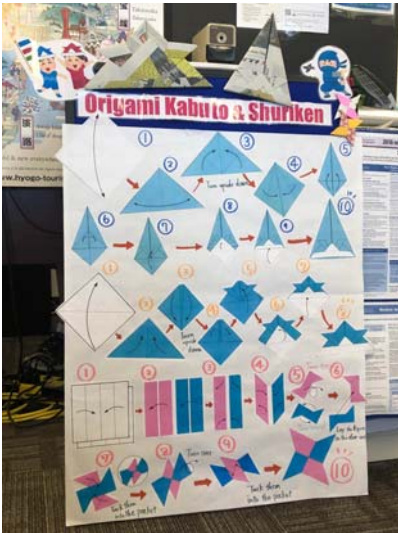
このボランティアは、今回が初めての実施でした。活動が実際に始まるまでに考えていたものとは違う部分も多くあり、それまでの事務所での2週間のインターンシップとはかなり性質の異なる活動でした。ボランティアということもあり、事務所でのインターンシップのような特別な活動というよりも、先生方と学校を助けるための活動となります。だからこそ、活動を通してより多くのことを学ぶためには、主体的で積極的な行動が非常に重要となる活動でした。頼まれた仕事をこなすだけでなく、自分の経験をより身のあるものにするために、自分はこの経験を通して何を学びたいのか、この経験を活かしてこれからどうしたいのか、ということをしつかりと根元から見つめ直して日々の活動に取り組みました。それだけに、しっかりと自分自身を見つめ直し、自分の将来を見据える機会にもなりました。そのため、この学校での活動は、実際の仕事内容以上のものを多く与えてくれるものです。アメリカで先生として働くことがどのようなものなのかということの間近で観察し、アメリカの学校でアメリカの子ども達と交流したことは、留学など他のプログラムでは絶対に得ることのできない、非常に貴重な経験です。特に、将来海外で教師として働きたい人やアメリカの教育に興味がある人には、このボランティア活動はたくさんの貴重な知見を与えてくれると思います。

- ・ 日々の生活を通して

私はすでに海外に語学研修に行ったことがあるので、いかに自分は実践的な場面で英語を使うことができるのかということを知るためにこのインターンシップとボランティアに参加しました。事務所や学校では日本語を使う場面が多かったため、日本語と英語、日本とアメリカの文化の違いを通して日本の言語、文化について新たなことを学ぶ重要な機会になりました。それだけに、日々の生活こそが自分の英語の能力について知るために非常に重要な役割を果たしたと思います。

1ヶ月海外で過ごしたのは今回が初めてだったので、いろいろな場所に出かけることもできたし、ホストファミリーとたくさん交流することもできました。事務所と学校での活動だけでなく、ホストファミリーとの生活やどこかへ出かけた際など、日常のあらゆる場面を通して、自分の英語の能力も含め、自分自身を知ることができ、自分に対する自信も得ることができました。

■ Japan Week のアクティビティ・パネル



■ John Stanford International School の外観・教室・イベント Balloon Drop



■ 観光



■ ホームステイ



■ Labor Day の週末 Washington State Fair

